## 瀬戸内海離島に存在する沼沢水の化学成分

# 松 平 康 雄 (広島大学水畜産学部水産学科)

## Chemical Composition of Pond Waters on the Ilands Located in the Seto Inland Sea

#### Yasuo Matsudaira

Department of Fisheries, Faculty of Fisheries and Animal Husbandry, Hiroshima University, Fukuyama Japan. (Text fig 1; Table 1.)

瀬戸内海の様に降雨の少い海域内に位置する島にある沼沢の水質に潮風がどの程度に影響して居るものかを予察する目的から、海洋観測の途次数ケの島に立寄り、その水質を調べて見た.

試料は古いものであるからその沼沢が現存しておるか否かは判らないのであり、其形態も昔のままではあるまいと思うが、基礎資料にはなるものと思い、ここに記述しておくことにした。又最近内海に於ては魚族の増養殖も盛んになって来ており、本資料はこれ等の池が或は利用されると云った場合に、その参考にもなると思う。

沿岸に近接して存在する湖沼の内には滲透的に海とつながりをもつものがあり、下層に塩分が濃かったり、全体的に塩分が多いと云ったものが見受けられる.

又淡水と鹹水が混合すると云ったことから両水系中にあった生物が環境の変化で枯死すると云ったことが起り勝で、従って底質には有機物が多く、硫化水素が底質中や底層水中に含まれることも通例である。一般に養魚池の底に硫化水素が発生する起因は投餌の残渣や生物の排出物による有機物が池底で分解するためである。

ただ幾分かの海水混入はその淡水魚の成育にプラスする面がある様で、海岸の淡水湖沼(幾分汽水めいたものも)では生物の発育のよい場合がよく見受けられる。又著者の体験だと、その海岸淡水湖沼に Limnocalanus が見られる池では特に淡水魚の発育の良い場合が屢々見られた。従って Limnocalanus が棲息しておるか否かはその池が養魚に適するか否かの標示ともなる。本観測は池岸で行ったものと、観測 船春風丸の楕円形大型救命ブイを筏に利用して湖心部の上下層について採水し、測深等も行った。

プランクトンについても検鏡の予定であったが都合でやれなかった。 ここでは主として各池の水質について共資料を発表しておく。

日本の湖沼の水質は吉村信吉氏が平均的なものを同氏著の"湖沼学"に示して居るが、その内本観測で測定した化学成分に関連あるものを示すと次の様である。

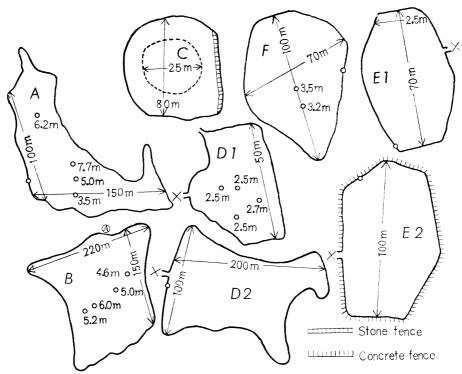
Cl: (中塩湖) 1-10g/l, (低塩湖) 1g/l以下, N:  $0.05\sim 2mg/l$ , P:  $0.005\sim 0.5mg/l$ , SiO<sub>2</sub>:  $1\sim 30mg/l$ , Fe:  $0.001\sim 1.0mg/l$ , Ca:  $3\sim 50mg/l$ , S:  $1\sim 10mg/l$ , と云った値である。これと本観測の結果(第一表)とくらべて見ると可成り内陸性の湖沼の水質を示して居ることがわかる。

次に各池の様子について特徴と見られる点について述べる。

姫島の池: この島は大分県に所属し、周防灘の南部に位置する孤島の溜池と云ったものである。南浦の海抜20m位の丘地に存在し、時には干すこともあると聞いた。池の形は第1図に示すもので最深は池中央にあり7m位である。底には朽木などもあり、底質には硫化水素臭がある。ウナギ、コイ、フナ、

の様なものが放流されて居る。日中の水温は岸で 31.9°C、池の中央 31.4°C、7mの底で、19.7°Cと云った低温で表面との差は 12°Cにも及ぶ。

酸素は表層で95%位であるが底層は無酸素状態となって居た。Cl、SiO $_2$ 、Fe, の含量はこの観測資料中多い方であり、硝酸、アンモニヤ-N等も検出され、溜水的な性格が強い。pH は表層6.6底で6.2 といったやや酸性気味のもので、表層の水が生物の飼育に適しておる。(Text-fig. 1.A)



Text-fig. 1. Shore-line and depth of the ponds. x. outlet

平郡島の池:山口県に所属する島で、島の西側櫛崎の北側で海岸寄りの傾斜地にある池で、海との距離は Text-fig. 1Bの $\hat{\Omega}$ 点に於て約20米位距っておる。水深は6m位の天然の砂丘堰止池の様で、漁夫と娘の伝説もあり、昔から存在する池の様である。底土は腐しょく質を多く含む。水温は日中気温より5°C 位高く、底層水温は表層より7°C 位低い。幾分か海水が滲入する様で Cl は表層 312mg/l, 底 456mg/l と云った値で潮風による Cl の搬入のためではないと思われる。 Ca も多く、燐酸塩も割に多く表層に95mg, 底 60mg/l と云ったことで、窒素分も検出された。鉄分は少く、酸素は表層には飽和して居たが底層水には溶存して居なかった。是も表層は養魚に適した水質である。

屋代島の池:山口県に所属する島で,その小松町近くの海岸から奥に 700米位距った所に位置する溜池である。水位は満水面より 2 米位下っており,中央部に直径25米位の水面が残っていた。極く浅い灌がい用水池で,ヒシ,ヤナギモの様な浮き藻が茂って居た。酸素は表層水では飽和しており,底層は測定出来なかった。窒素分や鉄の含量は少く,可酸化物が割合多く  $6mgO^2/l$  と云ったことであり,pH は 7.4 と云った値を示して居た。(Text-fig. 1.C)

大三島の池:愛媛県に所属する島で池は西海岸の宮浦地区の耕地の中にあり、大池と称されるものと、今一つの海岸にそって存在する池について観測を行った。両者共に2米余りの溜池である。図 I の $D_2$ に示すものが大池でこれはやや酸性で(pH6.4),酸素が表層でも13%位の僅少であり,底層は当然無酸素

であると思う。可酸化物が多く $6mg/IO_2$  と云ったことで甚だ汚染された池で養魚には不向である。今一つの池 $(D_1)$  は最深が、2.7米位でこの方は表層水に酸素は飽和に近い値であり、CI やN が少い。気温より何れの池も表面水温は高かった。 $(Text-fig.\ 1\ D_1\ D_2)$ 

弓削島の池:愛媛県に所属し、同島の西海岸に位置するもので、満水面より 3 米余り低水位であったが、水深は 3.5 米位であった。表層は酸素が61%位で少く、底は無酸素となって居た。硝、亜硝酸が検出されず、アンモニヤ-Nは底で 4mg/l 余りと多くなって居た。ここも底質は硫化水素臭をもち、Feが表層水に皆無で底の方に多く、又底層水には可酸化物が多く $6mg/lO_2$  余りを示した。(Text.fig. 1 F.)

因島の池:広島県に所属し、島の南東部小用の部落にある池で、この附近一帯に溜池が多い。大森の 池、宝の池と称される二つの池を測定した。後者の宝池は岸がコンクリート壁となっておった。

宝池は表面水の酸素が72%で割に少く,Cl や  $SiO_2$  の多いことやアンモニヤ,硝酸-N も多く,亜硝酸,鉄塩がないと云った特異性が目立った.(Text-fig. 1. $E_2$ )

大森池の方は 2 米位の水深のため、表底層の差は小さく、酸素は60%位の不飽和である。窒素化合物は何れも僅少であった。(Text-fig.  $1.E_1$ )

各島の池全体にわたって見ると Cl は平郡島のものをのぞき  $15\sim30mg/l$ , SiO<sub>2</sub>  $19\sim30mg/l$ , P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>,  $10\sim90$ , NH<sub>3</sub>-N は弓削, 因島のものに 2-4mg/l と多く,他は 1mg/l 以下である.

 $N_2O_8$ —N は全体に僅少であり、 $N_2O_5$ —N も因島の 0.5mg/l をのぞけば O—t, と云った僅少な含量を示し、Ca は  $10\sim25mg$ ,  $SO_4$ —S は小松の池をのぞき平均して 2,3mg/l 前後,Fe は姫島の池をのぞき1mg/l 以下となっておる。可酸化物の量は各池が溜池と云ったことや,人工的な池であると云ったことから有機物が多く,平均して  $5mgO_2/l$  前後を示す。 従って酸素も表層では飽和に近いものもあるが,不飽和のものがあり,底層水では皆無と云ったものが多い。水温は夏期に日中表層では気温より高めであり,浅いものでも底とは可成の差を示すものがある。又 pH は何れも 7 前後であり,淡水魚の養殖などにも悪い水とは思えない。又池水が灌漑用に出し入れされると云ったことからか,水質に於て潮風の影響を特に大きくうけておると云った傾向も認められなかった。

文 献

吉村信吉。1937 湖沼学

#### SUMMARY

Freshwater ponds are found on a number of islands located in the Seto Inland Sea. The author made observation of the chemical properties of pond water at some of the ponds located on the islands in the western part of the Seto Inland Sea. The primary purpose of this survey was to know the effect of the "sea breeze" from the chlorine contents of pond water. Some of the surveyed ponds were utilized for irrigation. Almost all the surveyed ponds were relatively shallow, and dissolved oxygen was poor in the bottom layer. Chlorine contents were considerably lower than expected. Other chemical compositions and their contents in each pond were not extraordinary; they were of the same order as the average values reported by Dr. S. Yoshimura for the lake waters of Japan. The results of the observation and water analysis are shown in Table 1.

It seemed that all the surveyed ponds could be utilized for the culture of freshwater fishes.

Table 1. Chemical composition of pond warters on several islands located in the Seto Inland Sea.

Station	Date (1940)	Time (h)	Depth (m)	Air temp. (°C)	Water temp. (°C)	pН	Oxy (cc/l)	gen (%)	Cl (mg/1)	SiO <sub>2</sub> (mg/l)	$P_2O_5$ (mg/1)	NH <sub>3</sub> -N (mg/1)	$N_2O_3$ -N	$N_2O_5$ -N (mg/1)	Ca (mg/l)	SO <sub>4</sub> -S (mg/l)	Fe (mg/l)	Org.O <sub>2</sub> (mg/l)	Remarks
Hime-shima (Ōita Pref.)	V <b>I</b> II−7	13h-14h	0 7	27.1	31.40 19.68	6.8 6.2	5.11	98	33.8 27.3	21.5 25.0	30 90	0.12 1.96	0	0 0.32	10.8 12.0	2.7 2.6	0.18	6. l 5. l	Bottom mud Smelled H <sub>2</sub> S.
Heigun-to (Hebi-ike) (Yamaguchi pref.)	VIII-8	10h-10h30	0 5	24.1	29.6 22.8	>7.6 6.6	5.89 0	109 0	311.9 456.0	19.0 19.5	95 60	0.05 0.11	0	0.16 tr.	14.4 16.8	2.3 2.3	0.04	4.3 2.7	There existed a field between pond and sea.
Yashiro-shima (Komatsu) (Yamaguchi Pref.)	VIII-8	13h	Shore	24.5	29.2	7.4	5.71	105	16.3	29.0	70	tr.	tr.	tr.	16.8	0.8	tr.	6.3	Water-weeds in pond.
Ōmi-shima (Ehime pref.)	A 10	9h-10h	0 Bottom	23.3	27.08 24.92	6.4 6.2	1.10 0	19 0	13.3 19.9	19.0	35 —	0.12	0 —	tr.	26.8	2.3	0.08	6.1	
	VIII-10  -	10h-10h30m	Shore	23. 28	25 · 20	6.6	5.09	87	9.6	36.0	10	0.08	0	0	15.2	2.3	0.03	2.6	5m beow full water level.
Yuge-shima (Ö-ike) (Ehime pref.)	VIII – 11	9h	0 Bottom	25.0	24.74 21.20	6.7 6.3	3.62 0	61 0	18. 1 22. 3	23.0 27.5	7 65	0.09 4.36	0 0	0 0	18.4 18.0	2.2	0 0.28	4.7 6.1	3m below full water level. Bottom mud smelled H <sub>2</sub> S.
Inno-shima (Hiroshima Pref.)	A	11h	Shore	26.14	25.65	7.8	4.15	72	36.9	30.5	16	1.98	0	0.56	26.0	2.1	0	7.5	Water-weeds
	VIII-11	3 11h30m	0 Bottom	26.2	25.9 25.72	6.5 6.4	2.80 2.29	49 40	18.4 20.8	19.0 17.5	48 55	2.36 0.19	0 0.113	0 tr.	22. 0 20. 8	2.14 2.10	0.08	5.7 6.1	2m below full water level.